

各位

党派を超えて国家的課題を追求する

公益財団法人協和協会  
時代を刷新する会

両団体会長代行 岸 信 夫  
両団体理事長 半 田 晴 久  
環境技術委員長 坂 本 忠 彦  
両団体専務理事 清 原 淳 平

環境技術委員会のお知らせ (第362回)

日時 令和元年10月23日(水) 午後1時半～4時

場所 衆議院第一議員会館 地下1階 第6会議室

千代田区永田町2-1-2

◆国会議事堂前駅(丸の内線・千代田線)①番出口より2分、永田町駅(有楽町線・半蔵門線)①番出口より下車5分。当日、午後1時より、議員会館玄関にて、通行証を差し上げます。その時刻前に到着された方は、恐縮ですが、受付協のロビーにてお待ち下さい。会議開始後にお越しの方は、受付に「第6会議室に行きたい」旨お伝え下されば、お迎えに参ります。

議題 1、「環境問題について、昨今、想うこと」

挨拶 坂本忠彦環境技術委員長

2、海洋ごみ問題に資する生分解性プラスチックについて

解説 粕谷健一群馬大学大学院理工学府教授

3、『環境技術関連ニュース NO.183』

解説 中島稔科学技術部会長

報告 去る9月18日開催の第361回環境技術委員会は、坂本忠彦環境技術委員長が議長を務め行われました。まず、坂本委員長より「環境問題について、昨今、想うこと」と題して開会挨拶がありました。台風15号が関東を直撃し、1週間以上経過した今日も千葉県の一部では停電している。なぜ千葉側の被害が大きかったかという、台風の目を中心にした進行方向左側に比べ、右側の風速は台風の進行速度の分が上乗せされるからであり、今回は千葉が台風の右側に位置したからである。停電は想定を超えていた。今回は教訓として、災害対策を改めて見直す必要がある。

次に、清原淳平専務理事より環境省大臣官房環境計画課・中島恵理計画官の経歴紹介がありました。次に、中島計画官より、『環境白書』について解説がありました。パリ協定の締結後、日本独自の取り組みとして、太陽光やバイオマス発電による電力の地産地消、紙おむつなどの再資源化、地域の自然資源の活用、自然を生かしたライフスタイルの変革などを行っている。また、頻発する異常気象による災害を抑制するために、燃料電池やCO2回収プラントなどの環境イノベーションの推進、グリーンファイナンスの推進に加え、世界で初めて気候変動適応法が成立し、気候変動に対応する施策を強化していく。海洋プラスチックごみ問題については、日本の海岸に漂着するペットボトルを調べると、奄美や対馬など九州の海岸では8割が海外のゴミだが、根室では7割が日本のゴミである。日本国内で排出するごみも減らさなければならない。そこで、今年5月にプラスチック資源循環戦略を策定。レジ袋有料の義務化をはじめとした施策により、プラスチックの完全リサイクル化とバイオマスプラスチックの導入促進を目指している。

次に、中島稔科学技術部会長より、『環境技術関連ニュース No.182』の解説がありました。今回は、○養豚における汚水浄化施設からの温暖化ガスの排出を80%減らせることを実証。炭素繊維に微生物が付着し、アンモニウムイオンから窒素ガスへの転換が進み、一酸化二窒素の放出が抑えられる。○アスベストへの規制を強化。○セラミックを利用した水質浄化。池や堀などで実証実験を開始し、海でも効果を上げたい狙い。○東京湾の水質は本当に改善しているのか? トライアスロン競技中に異臭がしたとの苦情があった。普段の水質は改善しているが、大量の雨水が流れ込むと海に流出する。○銅電極を利用したCO2の資源化。○海洋プラスチックごみ対策で国内企業の連携が進んでいる。○経産省、来年度概算要求で鉱物資源探査や海洋資源開発に113億円を要求。環境省は、海洋プラスチックごみ対策に188億円を計上し、昨年比2.2倍増。などの解説があり、一同大いに勉強になりました。

★レクチュアにつき、当日会費千円にご協力をお願い申し上げます。

次回、10月23日(水)の環境技術委員会に

出・欠 (いずれかに○印)

御芳名 \_\_\_\_\_

貴方様のFAX \_\_\_\_\_

テロ対策への警備からの要請上、会員に限ります。

非会員で参加希望者は、2日前までに履歴書をご提出下さい。

(その際の当日会費は二千円となります。)

事務局宛FAX 03-3507-8587

公益財団法人協和協会 03-3581-1192 時代を刷新する会 03-3272-4320

ホームページ <http://www.kyowakyokai.or.jp> Eメール [shigeta@jidaisassin.jp](mailto:shigeta@jidaisassin.jp)